

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：13601

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K18334

研究課題名（和文）土地の文化の継承と発展 -デザイン経営の視点による国際協働芸術創造の創発-

研究課題名（英文）Heritage and Development of Local Culture: Emergence of International Collaborative Art Creation from the Perspective of Design Management

研究代表者

北村 明子（KITAMURA, AKIKO）

信州大学・学術研究院人文科学系・教授

研究者番号：40334875

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：現代の国際協働による舞台芸術創作方法論について、アイルランド、ウズベキスタン、日本の対象地域のダンスコミュニティにて検証。ニーズの調査、ニーズと問題点の明確化、企画、企画のテストを経て問題意識を抽出。各地域の専門家、教育機関、行政等との協働による客観的調査と分析・情報共有から、個々の芸術家の作品創作活動の内容を見直すクリエイションプロセスを検証。さらに、芸術表現の思惑を広く情報共有する地域社会をマネジメントしていく創作活動のケーススタディーとして、ワークショップ、レクチャー、作品上演、アフタートーク、鑑賞分析等のフィードバック結果の検証を組み合わせた企画を実施し、各地域の結果を比較した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、芸術創造活動と地域社会の連携を強化し、国際協働による舞踊表現の新たな方法論を検証した。芸術家と地域社会とのコミュニケーション不足、地域ニーズのリサーチや芸術活動を社会的に根付かせる「デザイン経営」のマネジメント手法の導入などにより、芸術活動の問題を学術的に議論する基盤を探求。また、芸術家の国際的な活動について、地域共同体やコミュニティとの対話の場と方法論を提供することで、舞踊表現の社会的役割を考察する場の機能を促進した。芸術人類学的な視点とデザイン経営の手法を融合させたことで、新たな研究スキーム構築の可能性を齎し、舞踊研究活動が地域の生活文化の継承と発展に新たな視座を提供した。

研究成果の概要（英文）：This research project validated the methodology of contemporary performing arts creation through international collaboration in dance communities in Ireland, Uzbekistan, and Japan. It involved conducting a needs assessment, clarifying needs and issues, planning, and testing plans to extract concerns. Collaboration with local experts, educational institutions, and governmental bodies facilitated objective investigation, analysis, and information sharing to reassess the content of individual artists' creative activities, validating the creation process. Additionally, as a case study of creative activities managing a community that widely shares artistic aspirations, the project implemented a plan combining verification of feedback results from workshops, lectures, performances, post-performance discussions, and audience analysis, and compared the results from each region.

研究分野：身体論

キーワード：国際協働舞台創造 伝統芸能 デザイン経営 コンテンポラリーダンス

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国際協働芸術は、異文化や歴史を再評価し、意見の違いを通じて他者理解を深める重要な意義を有する。しかし、異なる地域の芸術文化の融合や共存は容易でなく、文化の私物化や搾取と批判されることもある。芸術家が地域文化を把握することは基本だが、創造性の発信に対する意見対立や誤解が情報発信の急速な発展で全世界的な問題となる現状がある。芸術表現が国際社会で意義を持ち、問題提起や解決促進の役割を果たすためには、地域特有の文化や思想を的確に把握し、広く情報共有する創作プロセスが必要である。

このような現代の国際舞台芸術創造活動の状況を踏まえ、研究代表者は、身体芸術表現の技法や地域文化の差異が現代社会の豊かさを伝え、問題提起を可能にするとの考えに基づき、研究課題を考案にあたり、以下の点をテーマの中心に据えた。

- ・舞台芸術と地域共同体の連携
- ・舞踊学と人類学を融合した実践研究
- ・客観的調査と情報共有を通じた国際協働芸術創作方法論の試行
- ・グローバルな協働が持続する舞台芸術活動モデルの考察

2. 研究の目的

本研究の目的は、国際協働芸術創作において地域社会と芸術家が効果的に連携し、新たな創作方法論を確立することである。具体的には、以下の視点から研究を進めた。

□地域特有の文化と思想の深い理解：対象地域の文化や思想を深く理解し、地域ニーズを正確に把握することが不可欠である。本研究では、身体文化と記憶の融合をテーマにした芸術創作を行い、双方向的な対話を通じて芸術家と地域社会が連携する方法論を検証する。これにより、創作過程で生じる誤解や対立を最小限に抑え、地域特有の文化や思想を正確に把握する研究体制を設定する。

□デザイン経営の視点を取り入れた創作プロセスの構築：デザイン経営とは、問題状況から課題を抽出し、解決策を持続可能な形で社会に実装するフローである。この視点を国際協働芸術創作方法論に取り入れることで、創作プロセスを体系化し、芸術家と地域社会が連携するクリエイションプロセスを構築する。これにより、客観的な調査と分析に基づいた持続可能な芸術活動を目指す。

□グローバルな協働芸術活動の普及とモデルの提示：国内外の異なる地域を対象に、国際協働舞台芸術活動を実施し、そのローカルリティに着目した創造活動モデルを提示する。実践研究を通じて学術的な検証を伴う方法論を提示することで、現代の国際性が問われる芸術創作活動と社会との対話の場を広げることが可能となる。

以上の視点を基に、国際協働芸術創作方法論の検証と新たな創作プロセスの提案を行うことで、地域社会と連携した持続可能な芸術活動を実現し、そのモデルを広く共有することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、コンテンポラリーダンスのクリエイションを通して、異なる地域の伝統舞踊と現代の表現が共存する国際協働芸術作品の創作活動を通じ、「デザイン経営」のアプローチを応用・検証することを目的とした。具体的な研究方法は以下となる。

□研究方法の概要

- ・調査対象地域：ゴールウェイ州、ダブリン、リムリック、ドニゴール州（アイルランド）、タシュケント、サマルカンド、スルハングリヤ州、カシュカダリヤ州他（ウズベキスタン）
- ・目的：異なる地域の土地に根ざす音楽・舞踊を調査し、地域特有の文化の伝承・混成・交錯の現在を考察する。
- ・手法：舞台芸術実践、芸術人類学の融合とデザイン経営のアプローチを適用し、舞踊の創作プロセスを以下のように設定した。

1. 芸術創造における共同体内外の視点の違いを受容し、問題点を抽出。
2. 言語の壁を超えた芸術表現を理解するための対話方法や公的機関の役割を考案。

3. 具体的な対話方法と公的機関が連携したフィードバック形式の青写真を構想。
4. 公的機関の連携にて対話型フィードバックを図り、舞踊創作をケーススタディーとして実践。
5. 複数の地域で実践発表し、そのフィードバック結果を比較。多様な価値観を持つステークホルダーを巻き込みながら、芸術家の主観を超えた対話から、課題解決を目指す方法により実践研究を進めた。

<具体的な研究活動>

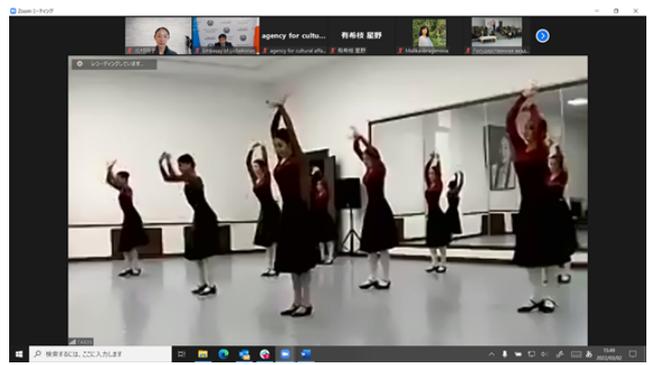
- アイルランドのシャン・ノース、ウズベキスタンの吟遊詩人バフシの歌と詩、演奏技法の調査を行い、ワークショップやレクチャーを実施（2021年）。
- 伝統芸術表現とコンテンポラリーダンスの融合についての、理解・ニーズ調査を行い、地域共同体との協働による交流事業（舞踊や音楽のリサーチ、ワークショップ、レクチャー、デモンストレーション）を実施（2022年）。
- 国際協働芸術創作の試験的实施を行い、作品の実践発表とフィードバック収集を行った（2023年）。

4. 研究成果

□フィールド調査・体験型リサーチ：アイルランドとウズベキスタン各地の「土地に根づいた音楽・舞踊や儀礼の伝承・混成・交錯」をテーマに具体的な地域と焦点を絞った。アイルランドではゴールウェイ州のシャン・ノースと呼ばれる無伴奏の古式唱法とパーカッシブな舞踊、ウズベキスタンでは民族舞踊、音楽や南部の生活文化に根付いたバフシ（吟遊詩人）の技芸とその歴史的社会的背景や伝承の現状、地域社会における役割や国内外の認知について各地域の専門家や実践家らのインタビューを行った。国内では、各身体技法の伝承の現在について、一般公開のレクチャー、ワークショップで紹介・共有した。これらの事業は、現地の共同研究者や地域コミュニティとの連携によりオンラインで実施した（写真①～④）。



写真①歌手ダイアン・キャンロン（アイルランド）によるシャン・ノース歌唱法についてのオンラインレクチャー、ワークショップ（2021年）



写真②ウズベキスタン国立舞踊アカデミーによる民族舞踊についてのオンラインレクチャー/デモンストレーション（2021年）



写真③ 研究代表者のコンテンポラリーダンスについてのクリエイションレクチャー（2021年）



写真④ オンラインによるアフロル・バフシ（ウズベキスタン）のインタビュー、デモンストレーション（2021年）

コロナ禍では、インタビュー調査、対談レクチャー、舞踊のワークショップやデモンストレーション、さらに、遠隔による実演クリエイションなど、未知の試みが続いたが、これらの工夫により、予想回数を上回る交流事業や交流が可能となり、派生する研究事業を広範囲に共有しながら推進することができた。

□対話型コミュニケーション：連携する研究者、専門実践家らが地域共同体内で行う儀礼やショー、イベントなどの社会的役割を担う活動に参加する機会が増えた（写真⑤、⑥）。これにより体験を伴うフィールド調査を実施し、調査後には専門家を交えた“対話型”インタビューや議論を行った。各芸能の技芸やその伝承の現状、生活文化における役割などについて、世代間の異なる意見や地域社会共同体内外の問題を共有し、本研究実践課題である芸術創造活動と地域社会に関する対話を深化させ、コミュニケーションを発展させた。



写真⑤スルハダリヤ州 ボイスン郡クズルナウル村（ウズベキスタン）の割礼儀礼 KOPKARI の前の共食バフシ・クル・バフシの演奏(2022)



⑥スルハダリヤ州テルメス市、サファル・バフシ／国民バフシのインタビューとデモンストレーション(2022)

□協働クリエイションプロセス・国際協働芸術創作モデルの提案と検証：具体的な舞台作品創作において、現地の伝統舞踊や音楽の思想や関連する神話、物語を取り入れる際に、各地域から示された問題点に対し、デザイン経営の視点を取り入れ、以下の実践研究フローを推進した。

1. 生活文化の理解：フィールド調査。
2. 対話と連携：現地での対面による体験型リサーチ+対話型コミュニケーション、課題の抽出、芸術創作実践研究のテーマに関するディスカッション。
3. クリエイション：1.2.を踏まえた協働創作。
4. 発表とフィードバック：地域社会におけるプロセスの公開とフィードバック収集。
5. 改善と再実施：各地コミュニティのメンバーとのディスカッションとリクリエイションと再度発表の実施。

上記のプロセスにおいて、コロナ禍で注目を浴びた映像配信システムやインターネットテレビチャンネル、SNS ライブ配信は、複数の人々との意見交換を高頻度でリアルタイムに行う協働クリエイションプロセスを構築するのに大いに役立った。これにより、創作活動に対する国内外の専門研究者、実践者、地域共同体の一般参加者のオブザーバーや異なる層の参加者からの意見を迅速にフィードバックとして得ることが可能となった。

□国際協働舞台芸術創造の実践発表・ドキュメンテーション／アーカイブ化：本研究期間中では、次の関連する国際協働芸術創作モデル3バージョンの実施を経て研究内容を検証した。1.アイルランド+日本(2022年2月/東京、2022年11月/ゴールウェイ) → 2.ウズベキスタン+日本(2022年11月/タシュケント) → 3.アイルランド+ウズベキスタン+日本(2023年3月/東京)。2021年度は海外からの招聘制限により、オンラインでのクリエイションやライブ上演と映像コンテンツの融合などに変更し、実践研究の成果を国内で発表した。2022年度には、2021年度に発表した成果を土台とし、ウズベキスタン、アイルランド各都市にてリクリエイションを重ね、現地の教育公的機関、行政、地域共同体、ダンスコミュニティとの連携にて、レクチャー、ワークショップ、舞台作品の成果発表を実施した後、アフタートーク形式にてディスカッションを実施（写真⑦、⑧）。



⑦（左）舞台作品上演後のアフタートーク
ウズベキスタン州立芸術文化研究所劇場にて（2022）

⑧（右）舞台作品上演後のアフタートーク The Mick Lally Theatre
（アイルランド）にて Galway Dance project のコミュニティメンバーらと（2022）

さらに、実践研究の成果を日本国内で発表した（写真⑨、⑩）。その際、鑑賞者の芸術表現に対する理解を深めるため、作品創作背景となったフィールド調査の一部や各地域の芸能の紹介を展示形式にて劇場に設置した。また、終演後、専門研究家を招いてレクチャーやアフタートークを実施。それらの記録を特設 web サイトにて、映像アーカイブとしてまとめた。また、舞台作品は舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業などとの連携により、継続的に国際的情報発信を行っている（写真⑪）。



⑨アイルランド・ウズベキスタン・日本の国際協働舞台作品
Echoes of Calling -rainbow after- より抜粋 (2023年3月)

⑩アイルランド・ウズベキスタン・日本の国際協働舞台作品
Echoes of Calling -rainbow after-より抜粋 (2023年3月)



⑪舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業
(Eternal Performing Arts Archives and Digital Theatre) によるアーカイブ化、映像配信システム (2023年12月～)

物質的に残らない舞台芸術や身体表現作品のドキュメンテーションやアーカイブ化は、国内においては海外に比べて非常に遅れていたため、コロナ以前から急務とされていたが十分に対応されていなかった。舞台作品の映像配信による鑑賞は、ライブの舞台作品鑑賞とは異なる時空間の体験であるが、その重要性は身体表現などの実践研究に対する鑑賞を広範囲に広げることや、客観的な分析と学術的な考察・検証を可能にするのみならず、リアルタイムで進行するクリエイションにおいても、双方向のコミュニケーションを可能にする点にあることを実証した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 北村明子	4. 巻 1
2. 論文標題 Echoes of Calling -rainbow after-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京芸術劇場	6. 最初と最後の頁 3月
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 北村明子	4. 巻 1
2. 論文標題 Echoes of Calling -gushland-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ウズベキスタン州立大学芸術文化研究所劇場・The Mick Lally Theatre	6. 最初と最後の頁 11月
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 北村明子	4. 巻 1
2. 論文標題 「アジアにおける土地の芸能、心・技・体の伝承と現代芸術表現への創発」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『京都造形芸術大学 共同利用・共同研究拠点「アニュアルレポート」』2019年度	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 北村明子	4. 巻 1
2. 論文標題 Echoes of Calling	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 スパイラルホール	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 北村明子	4. 巻 1
2. 論文標題 Echoes of Calling -Encounter	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 オンライン配信	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 北村明子	4. 巻 1
2. 論文標題 「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 KAAT神奈川芸術劇場	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村明子	4. 巻 1
2. 論文標題 Echoes of Calling - Gushland -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 スパイラルホール	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 北村明子
2. 発表標題 「コンテンポラリーダンスを巡って」
3. 学会等名 TPAMエクスチェンジ・JaDaFoダンスシンポジウム2021 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北村明子
2. 発表標題 「からだ語り得ること コンテンポラリーダンスの現在から」
3. 学会等名 JIAトーク2021JIA関東甲信越支部 JIAトーク実行委員会主催 オンライン（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北村明子
2. 発表標題 「ライブでしか伝わらないものとは何か？ 教育、育児、ダンスの現場から」
3. 学会等名 東京芸術祭2021 シンポジウム（東京芸術祭実行委員会主催）オンライン（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北村明子
2. 発表標題 実習 「表現・ダンスの魅力」
3. 学会等名 第54回全国女子体育研究大会JAPEW SUMMER SEMINAR 2021オンライン（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北村明子
2. 発表標題 「北村明子 Echoes of Calling ワークショップ」
3. 学会等名 公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団後援事業
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Echoes of Calling -gushland- Galway Dance Project
<https://www.druid.ie/the-mick-lally-theatre/whats-on/echoes-of-calling>
 Echoes of Calling -gushland- ウズベキスタン州立大学芸術文化研究
<https://dsmi.uz/yangiliklar/o-zdsמידa-yaponiyalik-ijodkorlar-tomonidan-echoes-of-calling-nomli-zamonaviy-raqs-kechasi-tashkil-etildi>
 ダンスワークショップ&レクチャー 「エチオピアの伝統舞踊と対話から生まれるダンスムーブメント」
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/event/post-44.php>
 Echoes of Calling - rainbow after -
<http://akikokitamura.com/works/ec-rainbowafter/>
 日本、中央アジア、アイルランドとの国際協働制作プロジェクト最終章へ！
<https://www.chacott-jp.com/news/worldreport/tokyo/detail030645.html>
 Echoes of Calling (国際交流基金 Stage Beyond Borders)
<https://www.spiral.co.jp/past-events/spiral-hall/echoes-calling>, <https://youtu.be/PTYEiwC-02w>
 Echoes of Calling - Gushland -
<https://www.spiral.co.jp/past-events/spiral-hall/echoes-calling-gushland>
 Echoes of Calling ~ Encounter ~
<https://galway2020.ie/en/event/echoes-of-calling/>, <https://www.youtube.com/watch?v=HWC3ndnJw6c>
 JIAトーク2021 『からだ語り得ること コンテンポラリーダンスの現在から』
https://www.jia-kanto.org/kanto/activity_event/lecture/7682.html, <https://youtu.be/HHtb1oo3a0s>
 「ライブでしか伝わらないものとは何か？ ~ 教育、育児、ダンスの現場から ~
https://tokyo-festival.jp/2021/program/symposium_1/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	和崎 聖日 (Wazaki Seika)	中部大学 (33910)	
研究協力者	アシロフ アドハム (Ashirov Adham)	ウズベキスタン科学アカデミー歴史研究所・Institute of History	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Echoes of Calling projectワークショップ ウズベキスタン	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Echoes of Calling projectワークショップ galway	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ウズベキスタン	ウズベキスタン州立芸術文化研究所劇場	在日ウズベキスタン大使館	
アイルランド	Galway Dance project		
アイルランド	Aras Enna Art Center (Aran Island)	Galway Dance Project	